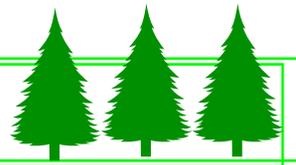




みつぎ便り



第222号 3月号 令和7年3月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



キンクロハジロ(金黒羽白)

カルガモより小型で、頭から背中が黒く腹が白い瞳が黄色い鳥が一羽泳いでいます。キンクロハジロの雄です。残念ながら雌の姿は見えませんが。

日本では十月〜四月に九州以北に飛来する冬鳥です。湖沼、池、河川などに生息し、食性は雑食で、水草、昆虫、甲殻類、魚類やその卵を潜水して採食します。日中は休息



し、夕暮れから採餌を始めることが多いです。

雄は頭部から胸部、体上面の羽衣が黒く、頭部の羽毛は紫色の光沢があり後頭部に冠羽があり、和名クロは羽衣に由来します。瞳の虹彩は黄色で和名のキンの由来となっています。和名のハジロは翼の一部分である翼鏡が白い鴨の総称です。

メスはオスと同じく後頭部に冠羽がありますが、オスほど長くなく双眼鏡などで見ないとわからないほど短い場合もあります。お腹はオスと違って茶色のため遠目から見ると全身真っ黒に見えます。(薫)

キカラスウリ

「今年はキウリの生り年だったのかな?」「えっ!キユウリですか?」

「黄色の烏瓜のことですよ。烏瓜は、濃いオレンジ色の実だけど、キウリは黄色。少し形が違うけどね。烏瓜は細長いけど、黄瓜は卵型。テニスボールみたいな感じの実。」
見次の会では花壇の水やり等が終わると、見次公園の自然の様子について情報交換をしています。

「黄色い烏瓜、見たことないです。」「まだ、残っているかもしれないから見に行きましょう。」「山茶花の木の上の方を見て。」「あるあ



る。たくさんぶら下がっています。

二月中旬なので、黄色というより山吹色に近い色でした。隣のモミの木の上の方にもありました。実はしなびかけていましたが、切つて中を見ると、綿にくるまれた種が大小合わせて四十個以上ありました。

「これなら、公園の入り口の階段横の木でも見たわ。」「他の会員の方の声。こちらの木は低木で葉もすつかり落ちていました。細い幹に縄が規則的に巻かれています。縄ではなく蔓?それは木質化した蔓でした。目でそれを追っていくと、すつかり枯れたキカラスウリの実が幾つかついていました。」

(敦)